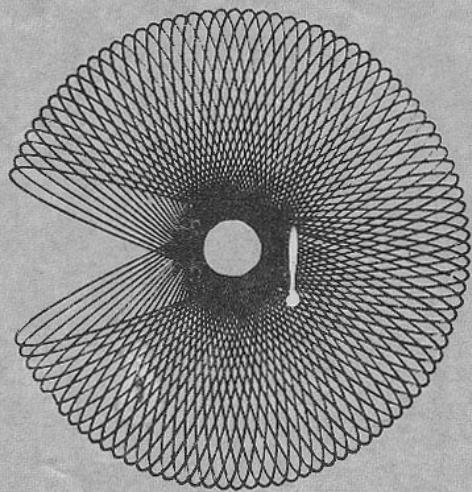




第一回発表会

1970年3月15日 PM 2:00

博物館ホール

琉球大学短期大学部

ギタークラブ

クラブの生たち

私達のクラブが結成されたのが一昨年のミーニシの吹きまくる12月。短大部初のクラブである。2、3の自己流でやったことのある者の外は、9割が全くギターをさわったことのない連中を乗せて、我らの船は荒海を漂った。

当初はギターアンサンプルの皆さんが親身に面倒を見てもらってから、見透しが明るくなってきた。正式な弾き方を誰ひとり知らない。これにはアンサンプルの皆さんもきっとびっくりしたにちがいない。昼は仕事、夜は勉強と、時間的制限を受けている連中が、クラブを結成したのが、そもそもまちがっていたのかもしれない……。

半年くらいは全く冴えない音の連続についで途中下船する者が多くなってきた。結成当時50余名が、ひとけたになりがちであった。夏休みに入り、練習も次第に充実してきた。連休の時には合宿もするようになったが、各自職場の事情によって、みんながそろって練習するという事はほとんどなかった。二学期が始まって、大学祭を迎えた。アンサンプルの皆さんの発表会に、無理にお願いして参加させて貰うことになり初舞台を踏んだ12月13、14日、初日から大いにノボせてしまってあまり冴えなかったが、いい体験だった。

そして今回は、短大部の第一回卒業生を送り出すにあたり、ささやかながらも独自で発表会を持つことになりました。

一昨年（昭和四十四年）の春、昼間部の電気科2年の私の甥A君が、2、3の包とギターをかかえて、八重山からはじめて出てきたことを思い出す。また昨年（昭和四十五年）の春、昼間は私の家庭のお手伝をし、夜は夜学に通いたいといつて出てきたS子の持物も一個のポストンバッグとギターであったことを思い出す。A君の場合もS君の場合も、非常にたのもしい印象を与えた。一方当世では大学入学記念に、ゲバ棒、ヘルメット、その他のゲリラ戦用小道具と一式をプレゼントするといった訳を某週間誌でよんだことがあるが、これは全く大学生をあざけ笑っている気がして冗談もはなはだしい過ぎるという気がした。

シューベルトの「楽に寄す」(Andie Musik)の歌曲にあるごとく、楽音は私共の悩める心を晴れ晴れとしてくれ、明日の仕事への活力を回復させてくれる。人間社会生活において、凡そ悩みのない人生はないと思う。その時、自分自身の悩みは自分で解消する態度は大変大切なことである。もちろん詩にたくし音に奏でることによって、清らかにその悩みを昇華することは、ゲバ棒で直接的にゴツンとやることと比較にならぬ高次元のものであることは明らかである。

私は楽器をもった、質素な身なりの学生のポーズが一番好きである。一人でも多く音楽をたしなみ、ときにはギターをつまびける学生人口が増えることを心ひそかにのぞんでいる。

祝 辞

琉大ギターアンサンブル

指揮者 上 原 安 敏

短大ギタークラブの皆さん、今日の発表会おめでとうございます。
部員の方々の喜びの胸中が伺えます。

去年の2月頃、まだ発足当時の当クラブに私が顔を出した頃は、5、6名程度の人数でアポヤンドからの出発でした。部長も女子が担当し、クラブ員、全員が役員で、合奏団とはほぼ遠いクラブでしたが、今日晴れの発表会をもつことは非常に意義あることです。これを機会にますます発展の途をまい進すること祈ります。

第一回発表会に あたり――

部長 東浜和子



1968年12月にクラブ結成してはや1年が経過致しました。
短大部はじめてのクラブだったので、始めの頃は40名ほどクラブ員もおりましたが、現在では13名になっております。仕事と学業とクラブ活動の3本立てはなかなか困難で最後まで継続するには忍耐が必要になります。クラブを結成した目的はギター音楽の技術の向上よりもむしろギターを通して音感を養い又、広く人間を知り、友を得る場として結成されました。限られた時間内の練習であり未熟な演奏はお聞き苦しい点もあるかと思いますが、私達のギターに対する情熱とご理解を下さいまして、日ようびの午後のひとときを楽しく過して預ければ幸いに存じます。

最後にこの演奏会を開催するにあたり、ご協力下さいました琉大ギターアンサンブル、琉球政府立博物館、琉大短大部並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げますと共に今後とも琉大短大部ギタークラブの発展のためご支援、ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

演奏曲目

第一部

- スライドワルツ
子鹿のバンビ.....平岡照章
通りゃんせ.....日本童謡
まりと殿様.....中山晋平
夜霧のしのび逢い.....ジョ ヴァン ウェター
駅車馬.....アメリカ西部民謡
誘惑されて棄られて.....カルロ ルスティチェリ
河は呼んでいる.....G・ベアール



第二部

- 日光.....ソル
黒いオルフェ.....ボンファ
真珠とり.....ビゼー
メヌエット.....ベートーベン
禁じられた遊び.....スペイン民謡
マリアルイサ.....サグレラス



第三部



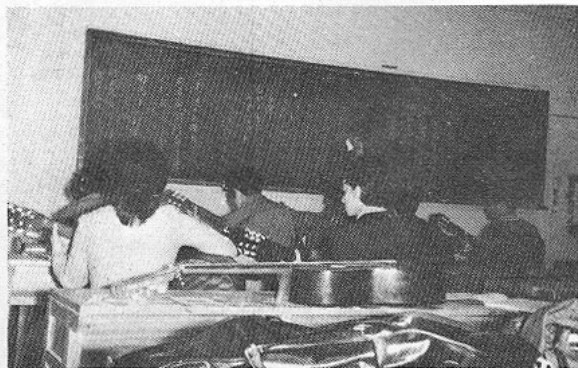
カーノ円舞曲	カーノ
ラリアネ祭	モツッアーニ
小さいなロマンス	ルイスワーカー
金色の眼の少女	イエデス
マラゲニア	スペイン民謡
悲しみの礼拝堂	ゴメス

第四部

シェリートリンド	メキシコ民謡
ラクンパルシータ	ロドリゲス
新内流し	日本俗曲
アダージョ	カール
ロンド	カール
メヌエット	カール



練習風景



練習のあいまに



部員紹介

部長	東 浜 和 子	指揮 与 儀 清 治
副部長	新 垣 綾 子	1st チーフ 与 儀 幸 也
		2nd チーフ 金 城 守 生
		3rd チーフ 仲宗根 和 子

1st	与 儀 幸 也 (英文科 1 年)	嘉 陽 宗 信 (法政 1 年)
	仲 原 正 典 (機械 2 年)	当 間 嗣 子 (法政 2 年)

2nd	金 城 守 生 (電気 2 年)	東 浜 和 子 (英文 2 年)
	伊良皆 義 三 (商科 3 年)	金 城 律 子 (経済 2 年)

3rd	仲宗根 和 子 (英文 1 年)	新 垣 綾 子 (英文 2 年)
	亀 川 盛 順 (経済 2 年)	古 堅 孝 子 (経済 2 年)

司会…………阿波根直次 (商科 3 年)

捧 雑 振 り 威

指揮者

与儀清治



われら(?)三年次

私達の短大部にはじめてクラブが結成されたのがギタークラブであった。教本があることも知らず、質屋が3ドルのこわれかけたギターを買い込んで、自己流に少しばかりやった事はあったが、音に対する感度がズバ抜けてオソマツであったから、ギターについては、はなしのはの字にもならない。最初からやるつもりで入部したのが、みなにたりよったりの連中と、まだひどい連中とが集まった。

部員が次第に少なくなってきた頃、クラブの再編成にあたり、指揮をすすめるハメになった。以上の事がらから、どうして自分が指揮をせねばならなかったのか、今だわからない。その頃は三年次は私だけ残っていたし、体つきがあるは捧みたいのカッコウをしていたので、そうなったのかもしれない。最初のうちは、みんなの前に立って捧を振ることがとてもはずかしかったが……ホトケの顔も三度まで、いつのまにか奮闘気にもなれてきた。入門書をひもときながら自分なりにやってみたが……

音に対するすべて悪い面ばかり持ち合わせた者が、後輩のクラブ活動に対する情熱にホダされて、今日まで捧を振り続けてきたというのが本音かもしれない。卒業延期にでもなって、あと一年くらいでも……とったりすることもあるが、イヤ老兵は消えさるのみ……たのもしい後輩が控えています。今後の活躍を影ながら期待したい……。

タイガー印刷は

赤いリンゴがリンゴらしく見える

ごくあたりまえのことなのですが

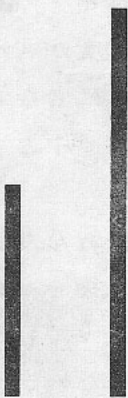
鮮明によりリンゴらしく再現する

ことに努力しています。

そして

みなさまの作品は私たちの作品で

もあると自負しています。



タイガー印刷

浦添村城間2614番地

TEL. 097-2946
097-2183